

宮田村教育大綱

郷育 故郷に生き 故郷を愛し 故郷を創る 人財の育成



目指す生徒の姿

- 生きて働く知識・技能を得て、使うことのできる生徒
- 自分や他者、対象と対話し、考え(思)を深めようとする生徒
- 学んだことを人生やふるさと宮田に生かそうとする生徒

学校教育目標

自分の姿を見つめ 心豊かに伸びる
～教育理念【自己をみる】～

校長の願い

- ・人のために何かしてみる学校・学年・学級・自分。
- ・あちこちで「ありがとう」の言葉がとびかう学校。
- ・宮田中学校でよかった」と思える生徒、家族、職員。
- ・生徒も、職員も、家庭も、地域も、『みんな幸せ』になること。

自己肯定感、
自己有用感の
高まり

～スチューデント・ファースト～ 教育活動のすべての判断基準
「生徒にとってプラスかマイナスか」「子どもにとって良いか悪いか」

*生徒の強み(良さ)を伸ばす学校づくりと、自分・他者・対象と対話しながら学ぶことを通して、
①新しいモノを「創造する力」 ②臨機応変に「適応・対応する力」 ③他と「協働する力」
④「考える力」「議論する力」「発信する力」を高め、自己肯定感・自己有用感の高揚につなげます。

宮田村教育大綱「郷育」に寄せて 「故郷を愛し、故郷を創る」

- *「宮田村を知り」「宮田村で学び」「自己を見つめ、宮田村に生きる」
- ・宮田村の良さを存分に知り、宮田村の自然や文化、産業、伝統に囲まれて育ってきた自分を見つめ、自分や宮田村の将来のありようを自信を持って表現する。
- ・学びの成果を、仲間や保護者、地域に広く発信する。



本年度の重点・・・「自己肯定感」「自己有用感」の高揚

- 1 学力・体力の向上 (1)学力観の共有 (2)学習改善・授業改善に対応した学習評価
- 2 生徒指導 (1)いじめ・差別のない集団づくり (2)不登校・集団不適應への対応
- 3 キャリア教育・総合的な学習の時間の充実 「地域を知り・地域で学び・地域に生きる」学習
- 4 ICT教育の推進 (1)キガスクール構想・一人一台端末への対応 (2)オンライン学習の実践
- 5 心の成長 (1)特別な教科道徳の充実 (2)生徒会活動の充実 (3)部活動改革

本校生徒の強み(良さ)

- *自ら考えたり、調べたり、表現したりする学習や、自分の考えを出したり、友とかかわりあったりする学習ができる。
- *生徒会活動、係活動、清掃活動に積極的に取り組める。
- *いつも悩みを相談できる友達がいる。

宮田村(地域)の強み(良さ)

- *豊かな自然、伝統文化、農業、産業、人情味溢れる人柄が集う宮田村。
- *将来の故郷宮田村を担う子どもたちを、村民みんなの力で育てる思いの宮田村。

学力・体力の向上(学力向上プラン)

「対話から思考を深め(判断し)、深まりを表現できる生徒の育成」
【学力観】 「思考・判断・表現する力の深化」
*本校でつける力(学力)とは・・・自己表現→対話→思考(判断)→深まった自己表現のサイクル化
・既習事項や今ある力で「見方・考え方」を動かせ、「自分の考え」を持ち、「自己・他者・対象との対話」を通して、「自分なりに納得できる考えにまとめ、表現(発信)する」このことの繰り返し。
*育成すべき資質・能力:「知識・技能の習得」「思考・判断・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」について、本校でつける力(学力)に沿って評価し、教師の授業改善、生徒の学習改善に活かします。

生徒指導

- 1 「生徒指導」「不登校・集団不適應支援」「生活指導」の3つの柱で推進します。
- 2 授業改善、学級づくり、人間関係づくりを通して、自己肯定感や自己有用感の高揚に努めます。
- 3 居場所づくり・・・居場所の目的、魅力を明確に示し、生徒自身が自己決定できる環境を整えていきます。

キャリア教育・総合的な学習の時間

- 1 「知ろう宮田村」(1年)「体験しよう宮田村」(2年)「よりよくしよう宮田村」(3年)に基づき、地域に根ざし、地域を題材とした学年総合を推進します。
- 2 宮田村の企業や先人の生き方に学び、人生に生かすキャリア教育を推進します。(宮田村キャリア教育フォーラム(2年)、宮田村こども議会(3年)への参加)
- 3 家庭や地域(宮田村コミュニティ・スクール)との連携による体験学習と、宮田村と関わる活動を進めます。
- 4 必要に応じて郷土学習資料集を活用していきます。

ICT教育の推進

*ICT教育でつける力・・・キガスクール構想により整備された一人一台端末を活用し、個別学習や協働的な学びを広げながら、「創造力」「表現力」「思考力」「コミュニケーション力」を高めます。
1 個別最適化(個人での活用)の特徴を活かし、コミュニケーション力を高めます。
2 情報トラブル事例等を活用しながら、正しい知識や判断力を養う情報モラル教育を推進します。

心の成長 「自己肯定感」「自己有用感」の高まりを

- 裏付ける「道徳」「学級活動」「生徒会活動」「部活動」
- 1 多様な価値観と出会い、対話や議論しながら考え、「判断力」「心情」「実践意欲」を育てる道徳を実践します。
 - 2 自己理解、他者理解の下で、多様性を包み込む集団づくり・学級活動を推進します。
 - 3 他者や地域のために何が出来るのかを問う生徒会活動を進めます。
 - 4 スポーツ・文化活動指針に沿い、身につけた技能や態度を日常に活かすことができる部活動を推進します。